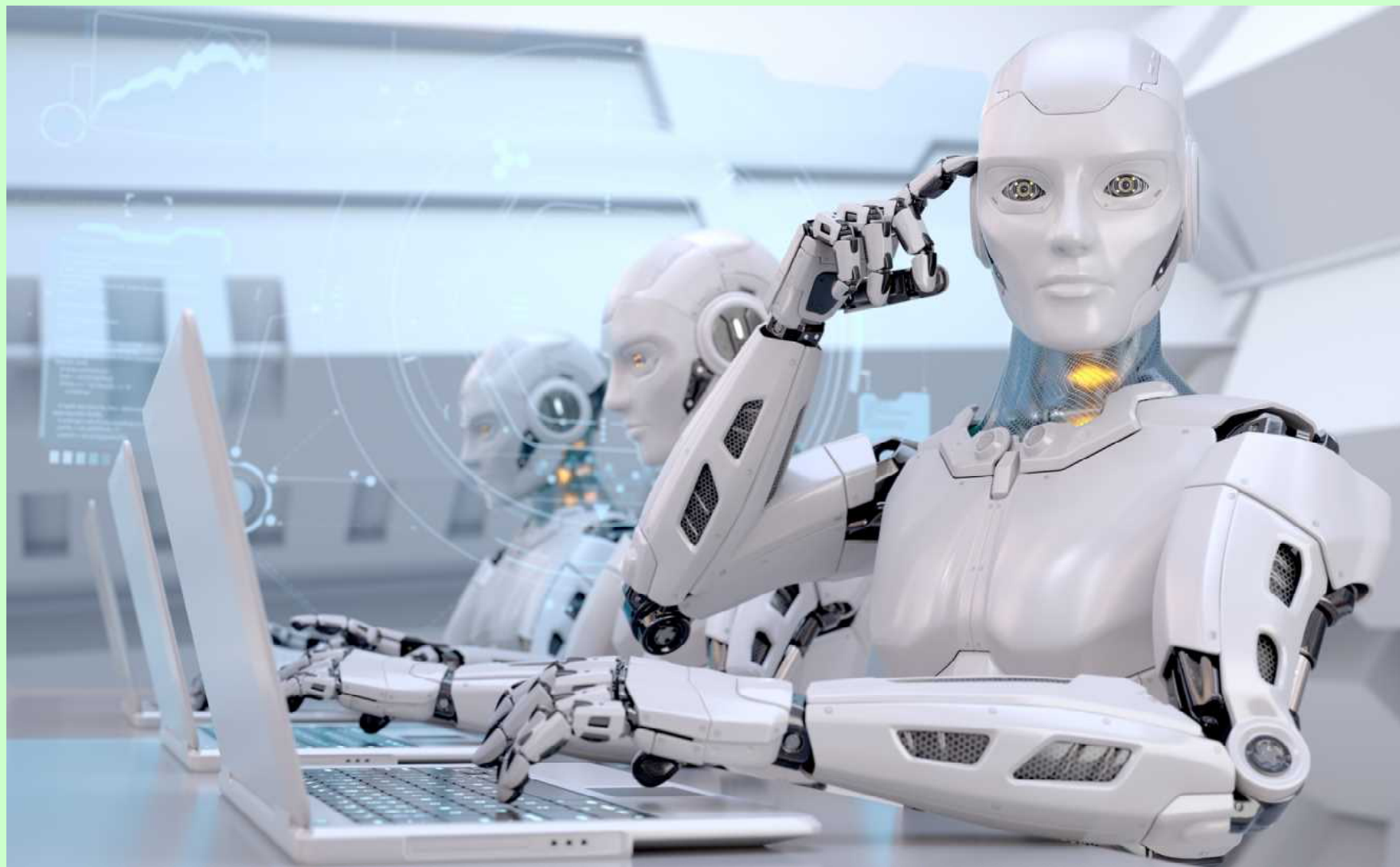


次世代 A I の事業計画書



株式会社日本ソフトウェアアプローチ
<https://www.jsain.co.jp/nextAI/>

『次世代A I (人工頭脳)について』

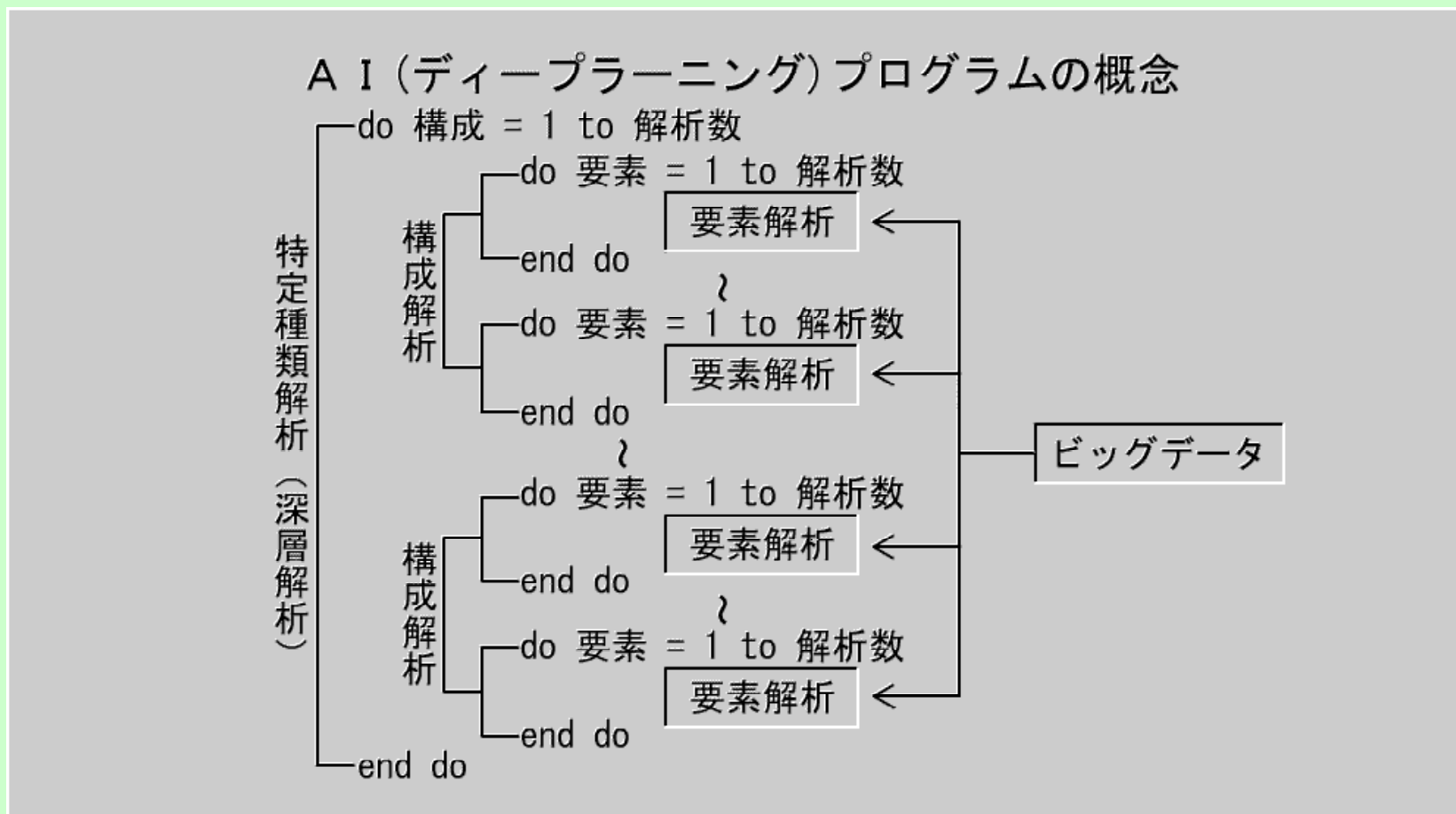
現在、人工知能(A I)が最先端ソフトウェア技術として脚光を浴びておりますが、汎用人工知能レベル(AGI)に到着するには極めて困難な状況にあります。

そこで、次世代A I (人工頭脳)を提唱・提案して、汎用人工知能(AGI)の構築に向けた開発を進めます。

【A I (ディープラーニング)プログラムの欠点】

現在のA I (ディープラーニング)プログラムの欠点は、プログラム容量が膨大、開発費用が莫大、開発期間が長期、面解析なので解析範囲が狭い、精度が低い等があります。

さらに、プログラム容量が大きい・ビックデータが必須・解析精度が低いという課題により、プログラムのタスク化が困難になり、自動制御システムの搭載には極めて困難になります。



【次世代A I (リカーシヴネットワーク)プログラムの利点】

次世代A I (リカーシヴネットワーク)プログラムの利点は、プログラム容量が小さいのでタスクのマルチ化が可能、開発費用を抑制、開発期間が短期、立体解析なので解析範囲が広い、精度が高い等があります。

特に、人口頭脳搭載ロボットと完全自動運転モビリティに最適な技術になります。

なお、次世代A Iプログラムは、現時点ではコンパイルエラーになりますので、新たにコンパイラの開発が必須になります。(A IコンパイラによるA I言語を開発)

◎この立体解析プログラムは、リカーシヴネットワーク構造になりますので、脳細胞によるネットワーク構造に近い構造を実現しますので、人間の頭脳に限りなく近い構造になります。

ゆえに、A I言語の開発が人類の夢を実現する中核になります。

◎機能説明

1. 解析テーブル(最大種類数・最大構成数・最大要素数)は人間の知識に相当します。
2. 解析テーブルを立体解析するためにD Oループで、リカーシヴネットワーク構造を実態化します。
3. デシジョンテーブルは思考判断になり、最重要な情報になります。

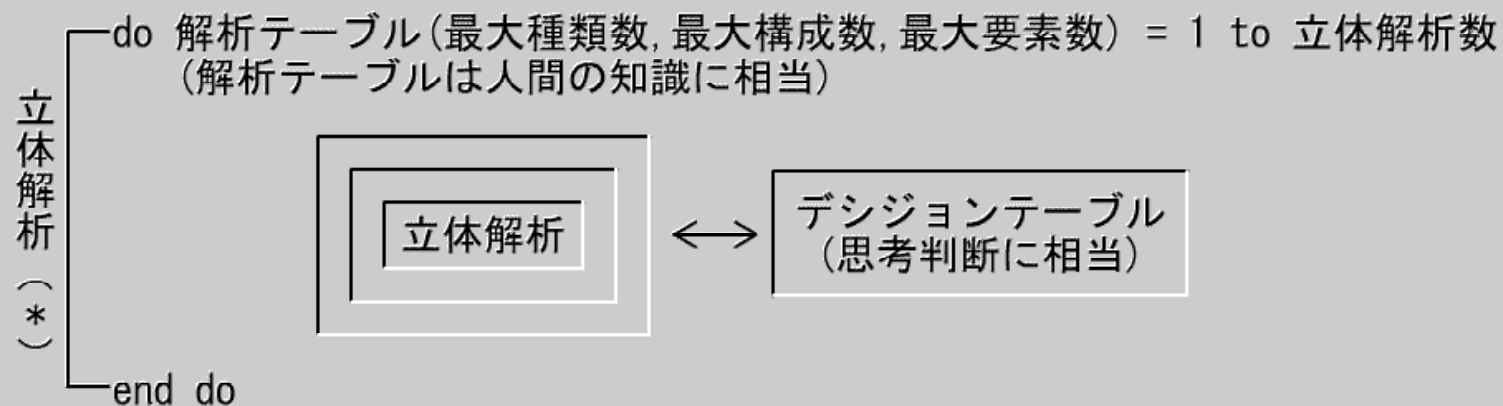
また、デシジョンテーブルは経験テーブルも含まれますので、更新可能にします。

◎生成A Iについて

現在、生成A Iという新技術が話題になっていますが、残念ながら精度が低いのが現状です。

そこで、生成AI技術と次世代AI技術の融合により人工超知能(ASI)が可能と考えております。

次世代A I (リカーシヴネットワーク)プログラムの概念



(*) リカーシヴネットワーク解析で人間の思考に相当

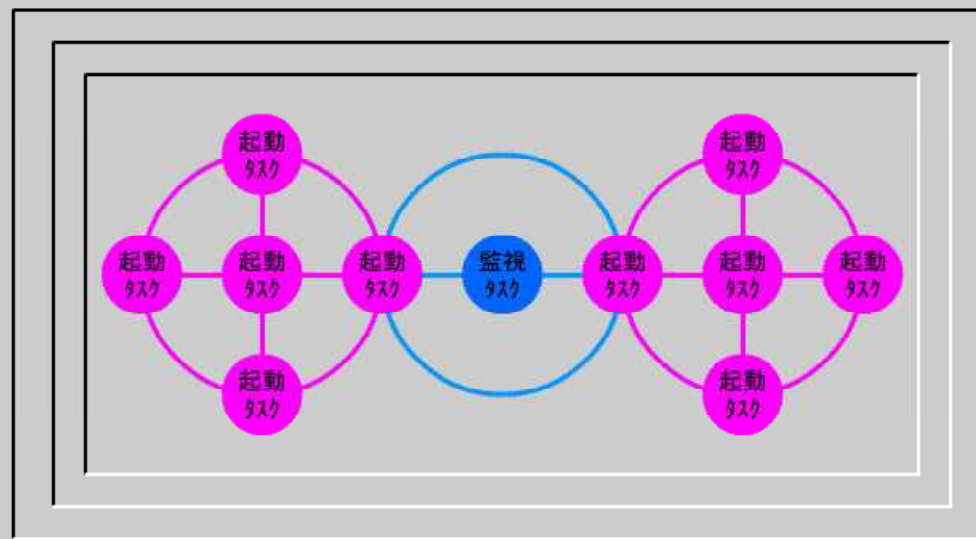
【次世代OS (オペレーティングシステム)の説明】

制御系OS (TRON)とビジネス系OS (Windows)の利点を融合して進化させた次世代OSで、マルチレイヤー(複数分野)、マルチタスク(起動タスク)、監視タスク(ラウンドロビン)で構成されています。

これは、次世代AIプログラムを起動タスクに用いることにより、人類の夢である汎用人工知能(AGI)に限りなく近づきますので、製造業・サービス業の各種分野に適応可能と考えられます。

ゆえに、汎用人工知能(AGI)の構築には、次世代AI監視タスクと次世代AIタスク群を実装するマルチレイヤー群(複数分野)を構成する次世代OSの開発が必要になります。

次世代OS (オペレーティングシステム)の概念



マルチレイヤー(複数分野)

【次世代A I (人工頭脳)の開発】

◆開発期間(想定)

3～4年(重複している開発フェーズを除く)

◆開発予算(想定)

◇開発予算 = $500 \text{人/月} \times 120 \text{ヵ月} \times 120 \text{万円/人} \div 720 \text{億円}$

◆開発フェーズ(延べ月数)

◇基本設計————— 3ヵ月(設計済)

◇システム設計————— 6ヵ月(設計済)

◇プログラム設計————— 20ヵ月

◇プログラム製造————— 40ヵ月

◇プログラム試験————— 30ヵ月

◇プログラム連結試験————— 20ヵ月

◇システム試験————— 10ヵ月

◆汎用人工知能(AGI)開発フェーズ移行条件

プログラム設計が終了した時点で汎用人工知能(AGI)開発のシステム設計を開始する

【汎用人工知能 (AGI) の開発】

◆開発期間(想定)

5～6年

◆開発予算(想定)

開発予算 = 2000人/システム × 6システム/月 × 72カ月 × 120万円/人 ≒ 1兆円

◇製造業 : 高度生産システム、完全自動運転システム、研究開発システム

◇サービス業 : 高度医療システム、高度物流システム、高度教育システム

◆システム売上(想定)

◇製造業 = 年商20兆円(高度生産システム、完全自動運転システム、研究開発システム)

◇サービス業 = 年商20兆円(高度医療システム、高度物流システム、高度教育システム)

◇利益 = 年商40兆円 × 95% = 38兆円

◆資金調達

◇資本金1兆円の事業会社として株式公開(株式評価額900兆円想定)

◇450兆円を調達(株式評価額900兆円想定)の50%)

◇新規事業に活用

◆新規事業

●投資規模

人工頭脳搭載ロボット = 100兆円、高度モビリティセンター = 100兆円、
高度物流センター = 100兆円、高度医療センター = 100兆円、高度教育センター = 50兆円

●事業規模(想定)

◇人工頭脳搭載ロボット事業 : 年商 = 300兆円、利益100兆円

◇高度モビリティセンター事業 : 年商 = 300兆円、利益100兆円

◇高度物流センター事業 : 年商 = 300兆円、利益100兆円

◇高度医療センター事業 : 年商 = 300兆円、利益100兆円

◇高度教育センター事業 : 年商 = 100兆円、利益 20兆円